



TITLE:

静脩 Vol. 24 No. 3 (1988.1) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 24 No. 3 (1988.1) [全文]. 静脩 1988, 24(3)

ISSUE DATE:

1988-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65989>

RIGHT:

附属図書館における電算化〔Ⅲ〕

目録作成業務について

1 はじめに

本号では、目録作成業務について報告する。なお、システム開発の概要・経緯等については、前々回で報告しているのでここでは述べない。また、目録作成の実際的な作業は学術情報センターの目録システムを利用して行っているが、その作成手順等は他で既に報告されており、ここでは必要な項目の説明をするに止めるので、詳細については参考文献を参照されたい。

2 書誌・所蔵データベース

まず、本目録作成システムで構築される ILIS 書誌・所蔵データベース（以下データベースは「DB」という）について説明する、なお、DBはすべてリレーショナル型DBを採用している。

1) データベースの構成

書誌・所蔵DBは大きく図書と雑誌に分けられる。各DBは、和書誌、洋書誌、所蔵DBから構成される。また、図書書誌DB、雑誌書誌DB及び雑誌所蔵DBはさらにいくつかのテーブルから構成されている。（図1）書誌DBにおける書誌本体テーブルとコード化情報テーブルは書誌データを格納するものであり、残りは検索のための索引テーブルである。書誌本体テーブルは、1データ要素1レコードで作成され、各レコードには資料毎にシステムが自動付番する書誌番号がセットされる。従って一資料の書誌データは、同一書誌番号を持つレコード群により表現される。データ要素の識別には、基本的に和書については JAPAN・MARC、洋書については LC・MARC フォーマットで規定されているフィールド TAG 番号及びサブフィールド識別子を使用している。所蔵テーブルは1冊（図書）あるいは1タイトル（雑誌）1レコードであり、和洋混在である。書誌DB内のレコードは書誌番号により、書誌DBと所蔵DB間は書誌番号及び和洋区分コードにより相互に関係付けられている。

2) 目録の作成単位

図書における目録の作成単位は、学術情報センター目録システム（以下「センターシステム」という）で規定するところの単行書誌単位である。センターシステムではさらに集合書誌単位を設定し親書誌、子

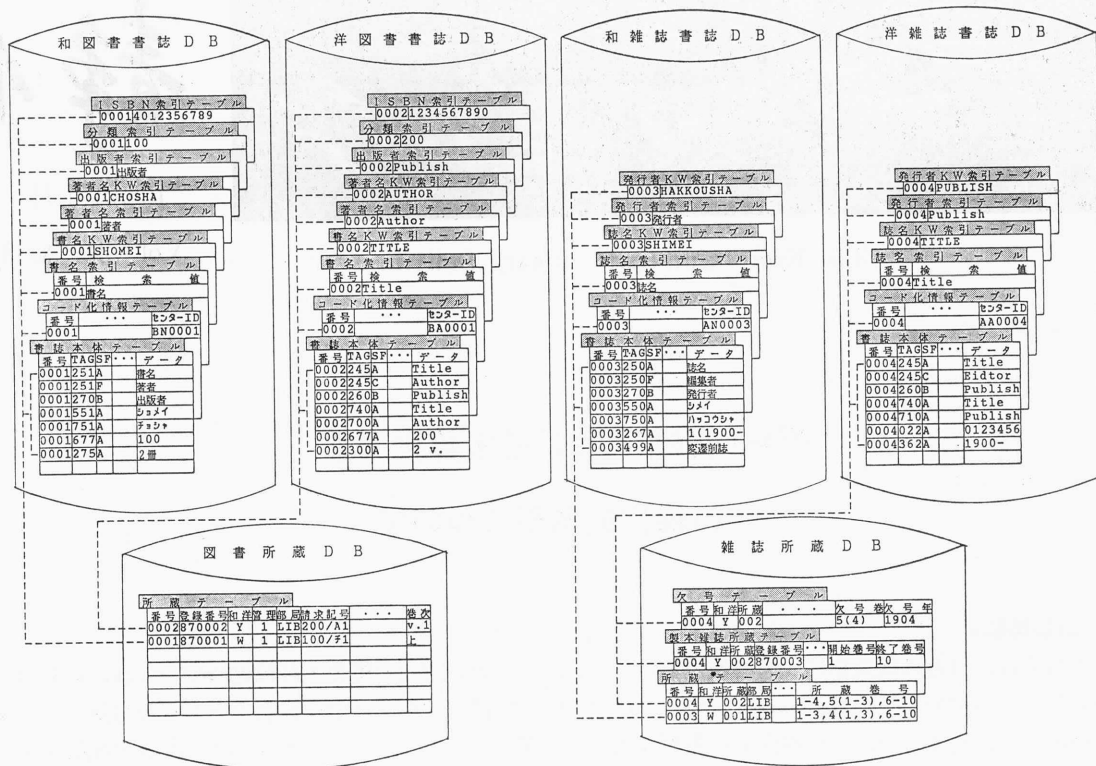


図1 書誌・所蔵データベースの構造

書誌という階層構造を持たせているが、本館ではこれを採用していない。このため、後述するDB一括登録処理において階層構造を持つ書誌の無階層化を行っている。雑誌についてはセンターシステム同様、個別記入方式を採用している。ただし、書誌変遷の管理は行っていない。

3) データベースの現状

図書書誌・所蔵DBについては、システムの運用に先だって本館開架分及び京都工芸繊維大学附属図書館開架分各々約4万5千冊についての目録を機械可読化して一括登録を行った。センターシステムによる目録作成は、附属図書館の昭和60年度受入分及び本館目録作成部局（理学部、工学部等）同61年度受入分から開始した。現在、法学部、文学部、農学部、教養部及び京都工芸繊維大学、滋賀医科大学がセンターシステムによる目録作成を行っている。またその間、随時パンチデータによる一括登録もあり、現在和書については約11万冊、洋書については約9千冊が登録されている。

一方、雑誌書誌、所蔵DBについては、学術情報センターより学術雑誌総合目録の近畿北部地区国立7大学分を磁気テープで入手し、一括登録を行った。現在は雑誌受入システムとの連動部分を調整中である。なお、これまで述べたように本書誌・所蔵DBは近畿北部地区国立大学で分担作成され、共有されるものである。その意味で本DBは近畿北部地区地域総合目録と呼ぶことができる。

3. 目録作成システム

目録作成システムは、センターシステムを利用して目録作業を行い目録データを取込むオンライン処理と取込んだデータを用いて ILIS 書誌・所蔵DB を構築するバッチ処理とから構成される。なお、雑誌目録作成については、目録データの取込み機能以降が現在開発中であり、今後の説明は図書に限ることとする。

1) センターシステムによる目録作成処理

a) 目録端末

センターシステムを利用するには、そこで規定されている方法でデータを入出力できる端末装置が必要である。これを「目録端末」と呼んでおり、本システムでは富士通(株)のパーソナルコンピュータ FACOM9450Σ を採用している。目録端末は以下の機能を有している。

i) 1バイト系文字(英大小文字, カナ文字, 数字, 特殊文字)及び2バイト系文字(漢字, キリル文字, ギリシャ文字, NVT 拡張文字)の入出力機能

1バイト系文字については、キーボードから直接、2バイト系文字については、9450Σの持つカナ漢字変換機能を用いて入力する。また、カナ1バイト文字もこの機能を用いてローマ字入力が可能である。出力については、フィールド内で1バイト、2バイト文字の混在が可能である。なお、ここで NVT 拡張文字とはβのような特殊な文字及びÇ, Ö等の音標符号を含む文字であらかじめセンターで設定された文字である。

ii) 画面編集機能

本機能には画面制御機能(再表示, スクロール, 印刷)及びフィールド制御機能(更新, 拡張, 追加, 削除)があり、ファンクションキー方式で作動する。また、フィールドの制御対象行数はパラメータ設定による自動指定及び直接指定の二通りの方法がある。

iii) インテリジェンス機能

本端末の目録端末としての機能は9450Σの既存の機能を使って実現されたものである。従って、本端末は目録端末としてだけでなく普通のパソコンとしても利用できる。各端末は、BASIC インタプリタ及びEPOCファミリと呼ばれるソフトウェアパッケージを持ち、外部記憶装置として20Mバイトのハードディスクと8インチフロッピーを実装している。これにより、日常の事務処理にはもちろん、将来目録システムと連動したローカル処理が必要になった場合にも対応出来るインテリジェンス機能を有している。

b) ローカルコマンド

センターシステムによる目録作成では、そのままではデータはセンター側の総合目録DBに登録されるだけで、京大側には何のデータも残らない。ローカルコマンドとは、センターシステムによる目録作成中に作成したデータを京大側に取込むためのものである。表1にローカルコマンドを示した。ローカルコ

表1 ローカルコマンド一覧

コ マ ン ド	機 能
L S A V E	現在表示中の親書誌, 典拠, 所蔵画面データを中間ファイルに書込む
L S A V E R	現在表示中の書誌(親書誌以外)画面データを中間ファイルに書込む
L D E L E T E	現在表示中の画面データを中間ファイルから削除する
L I T E M	I L I S固有の所蔵データ入力フィールドを作成する

マンドはセンターコマンド（センターシステムで規定されているコマンド）と同様にコマンド入力フィールドから発行する。LSAVE、LSAVER コマンドが発行されると、その時点の画面データが中間ファイルと呼ぶ一時ファイルに書込まれる。現在では、両コマンドはセンターの登録系のコマンド（SAVE、CHOOSE、REGISTER）が発行されるとシステムが自動的に発行するようになっており、目録作成者はデータの取込みに関して、基本的には特に意識する必要はない。LDELETE コマンドが発行されると画面データが削除データとして書込まれ、既に中間ファイル上に存在する同一データを削除する。

```

和 図 書 所 蔵 新 規 入 力          ( 教 育 用 )          <BN00550846>          0
>:LITEM
<BN00550846>男性と女性 : 移りゆく世界における両性の研究 / マーカレット・ミート[著] ; 田
    中寿美子, 加藤秀俊訳. -- 1961(現代社会科学叢書)
<FA002611> 京大
<CD000052160X>
LOC:図
VOL:上 CLN:EC::161::71::1
VOL:下 CLN:EC::161::71::2
LTR:A:ミート, マーカレット
注 意 ! 以下は、先頭から          番目のVOL(物理単位)に対するローカル所蔵データです。
図書 I D :          擬似巻次:
所 蔵 機 関 :
所 在 記 号 :
管 理 区 分 : 受 入 区 分 :          受 入 年 月 日 :
資 料 形 態 : 資 料 取 扱 区 分 :          禁 帯 出 区 分 :
目 録 カ ー ド 印 刷 枚 数 :
ユ ー ザ 1 :          ユ ー ザ 2 :
ユ ー ザ 3 :          ユ ー ザ 4 :
ユ ー ザ 5 :
ユ ー ザ 6 :

```

図2 LITEM 発行後の所蔵登録画面

表2 ローカルトレーニング入力文法

標目種別	和洋区分	入 力 文 法
書名標目	和	T：標目形 カナ読み
	洋	T：標目形
著者名標目	和	A：標目形 カナ読み
	洋	A：標目形
分類標目	和	C：分類標数
	洋	C：分類標数
件名標目	和	S：標目形 カナ読み
	洋	S：標目形

c) ローカルトレーシング*

センターシステムでは、著者名及び統一書名に関して典拠コントロールを行っており、標目として設定できる形は原則的には一つである。しかし、本学のカード体目録を考えると、これまで採用してきた標

図3 センターシステムによる目録作成の流れ

目形がコントロールされる形と異なる場合も存在する。このため本システムでは、センターシステムの所蔵登録画面に用意されている LTR フィールド（参加館で任意の使用が許されている）を用いて、これを表現できるようにした。これをローカルトレーシングと呼び、表 2 に示した入力文法により入力する。ローカルトレーシングデータは、書誌 DB に作成した部局名付きで登録され、カード体目録出力の際、トレーシング情報及び副出標目として利用が可能である。

d) 目録作成の流れ

図 3 に、センターシステムによる目録作成の流れの一例を示した。図中、書誌入力画面から上に向う流れは典拠コントロールであり、下へ向う流れは、階層構造の作成である。矢印に付した英単語は画面展開のためのセンターコマンドである。

2) ILIS 書誌・所蔵 DB への一括登録処理

ローカルコマンドにより取込んだデータを用いて ILIS 書誌・所蔵 DB を構築する処理であり、以下の 3 ステップに分かれている。

a) データのフォーマット変換

1 資料に関する画面データがすべて取込まれているかを検査し、合格するとそのデータをセンター総合目録個別版磁気テープフォーマットに変換して作業用ファイルに書込む。システムによる検査は個々の

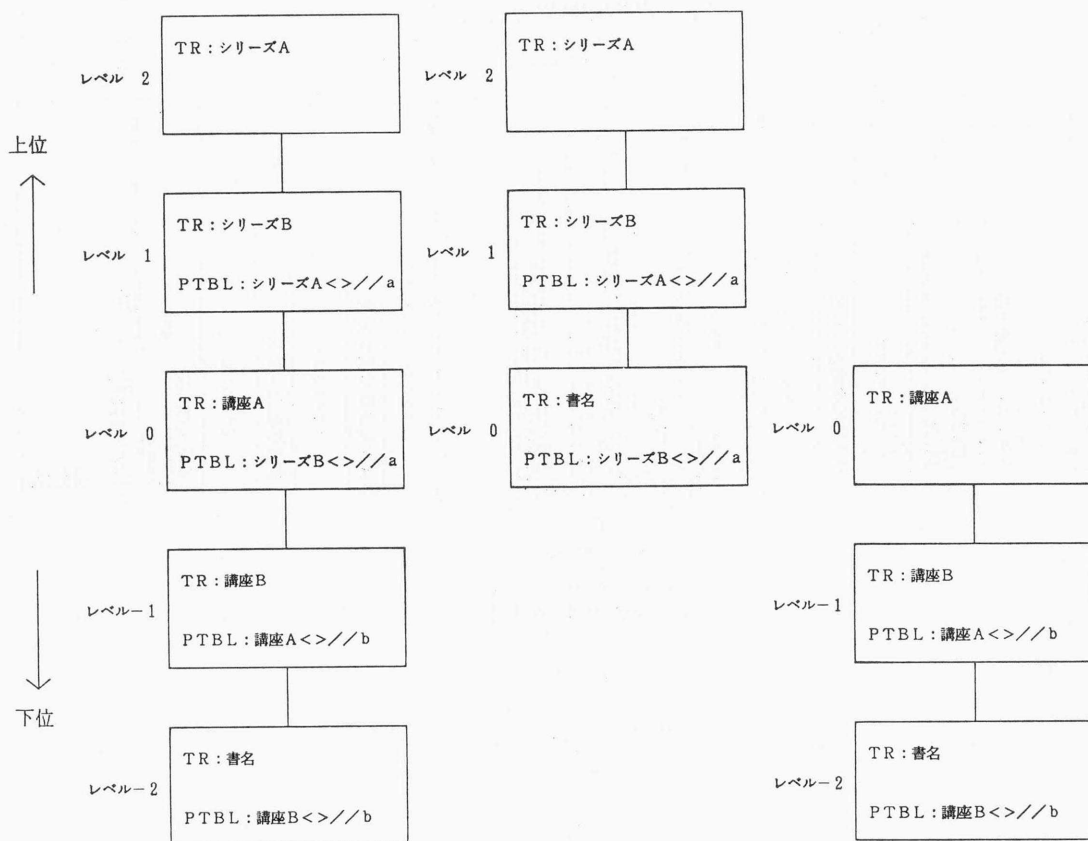


図 4 書誌階層のレベル付け

データの目録データとしての妥当性については行わないので、本ステップで出力されるチェックリストにより点検する必要がある。そのため、リストには検査結果と共に取込んだ画面データが資料ごとに出力される。不合格となった資料及び目録データとして誤まりのあった資料については、再度センターシステムにより修正し取込む必要がある。

b) 書誌・所蔵DB登録

a) で作成した作業ファイルにより、i) 階層構造を無階層化し、ii) データ要素に分解し、iii) 書誌DBのコード化情報テーブル、書誌本体テーブル及び所蔵DBにデータを登録する。

前述したように、センターシステムではセットもの（講座、全集等）やシリーズものは、セットあるいはシリーズ全体と各巻を親と子という階層構造で表現する。そして、全体を集合書誌単位として、これらの各巻を単行書誌単位としてレコードを作成する。すなわち、セットもの、シリーズものは複数のレコードで表現されることになる。これらの関係付けは子書誌の PTBL フィールドで行う。

一方、ILIS ではこのような書誌階層構造を持たないので、階層構造のある資料については無階層化をする必要がある。これは次のように行う。まず、システムは最下位の書誌から見ていき、書誌階層にレベル付けを行う。（図4）図中の a、b は構造の種類コードと呼ばれるもので、親子間の関係がシリーズものは a、セットものは b である。なお、階層構造を持たない書誌はレベル 0 である。そして、レベル 0 の書誌を基本書誌として、レベル 1 以上の書誌は結合編集してシリーズ表記として、レベル 1 以下は同様に各巻表記としてデータ要素に分解する。要素に分解されたデータは TAG 番号及びサブフィールド識別子が付与され DB に登録される。

所蔵DBには1冊1レコードで登録される。多巻もの（上、下巻もの等）の各巻は、所蔵レコードの巻次項目に巻次を設定することにより表現されている。

c) 索引系テーブルへの登録

本館の目録検索システムでは、和書のキーワード検索値としてヘボン式ローマ字を採用している。一方、その元データであるセンターシステムでの和書の読みデータはカタカナである。本館では、書誌本体テーブル上の読みデータはカタカナで持ち、キーワード作成時にローマ字化する方法を採っている。本ステップでは、索引値を書誌本体テーブルから作成した後、ローマ字化あるいは用語の統制を行って、索引用の各種テーブルにデータを登録する。

以上のDB一括登録処理は、ホストマシンの自動立上げ処理に組み込み毎日実行している。従って、目録作成を行った資料については、翌日から検索が可能となっている。

4. 目録製品作成

ILIS 書誌・所蔵DBに登録されたデータにより、1) カード体目録、2) 冊子体目録、3) 閲覧システム用蔵書レコード、が作成される。このうち、1) 2) については、ILIS 既存のパッケージを修正する形で進めたが、DBの項目の一部追加（前述の所蔵テーブルの巻次項目や洋書誌の各巻表記フィールド等）がプログラムに大きな影響を与え、開発予定は大幅に遅れることになった。現在、1) については完成、2) については完成まであと一歩という段階である。3) については新規開発で完成している。

1) カード体目録

カード体目録の例を図5に示した。出力にあたってはパラメータにより以下の選択が可能である。

- a) 副出カード（書名、著者名、分類、件名）の出力
- b) 和書における標目及びトレーシングの表記（カタカナ、ヘボン式及び訓令式ローマ字）
- c) 洋書における主標目カード方式と記述ユニットカード方式
- d) 洋書におけるインデクションの文字数、

カード体目録は本館設置の日本語プリンターにより専用紙に出力される。これを業者に出し、カット、穴あけをして完成させる方式を採用している。

2) 冊子体目録

総合目録としては、本体は分類順に出力し書名及び著者名索引を付ける予定である。また、新着図書案内等に利用できる形の出力も考えている。

3) 閲覧システム用蔵書レコード

前々回で報告したように、閲覧システムはミニコンピュータによる個別処理を行っている。この閲覧システムには蔵書ファイルが存在している。目録作成システムにより作成・登録されたデータは、抽出され蔵書ファイルのレコード形式に変換され一時ファイルに書込まれる。そして、ファイル転送により閲覧システムに送られ蔵書ファイル登録プログラムにより登録される。

EC 161 タ1 1	男性と女性 移りゆく世界における両性の研究 上 マーガレット・ミード [著] 田中寿美子, 加藤秀俊訳 東京 東京創元社 1961. 7-9 2冊 19cm (現代社会科学叢書)
8711071 87・11・7	1. ダンセイ ト ジョセイ 2. ゲンダイ シャカイ カガク ソウシ ヨ a1. Mead, Margaret, 1901-1978 a2. Tanaka, Sumiko a3. Katou, Hidetosi a4. Mi-do, Ma-garetto ㊦EC161
	1

R 128 J1	Jestaz, Bertrand L'art de la Renaissance / Bertrand Jestaz. — Paris : L. Mazenod, c1984 606 p. : ill. (some col.) ; 32 cm. — (L'Art et les grandes civilisations ; 14) Bibliography: p. 592-598 Includes index
87101415 87・11・11	I. L'art de la Renaissance. II. L'Art et les grandes civilisations ; 14. ㊦R128 ISBN: 2850880140 85140555
	1

図5 カード体目録の出力例

5. おわりに

何度も述べたように、本館の目録作成システムはセンターシステムを全面的に利用したものである。従って、センターシステムの動向に常に左右されるという性格を有している。その意味で、センターシステムの今後には大いに注目し、かつ、積極的に関与していく必要がある。

一方、地域総合目録のDB化をめざした以上、今後、より多くの部局、大学の参加が要請される。すなわち、一部部局の目録だけのDB化では、利用者から見ればアクセスポイントが増えて、却って煩雑になる。そのためには今後、本目録作成システムへの参加を容易にするための、あらゆる面での条件整備が急務である。

参考文献

- 1) 文献情報センターニュース, 特にNo. 7, No. 8.
- 2) 学術情報センターニュース

NACSIS-IR(学術情報センター情報検索)概要

——研究活動支援に大きく寄与——

学術情報センターは、昭和55年の学術審議会答申「今後における学術情報システムのあり方について」に基づき設立された国立大学共同利用機関です。その果すべき使命の一つとして“自然科学、社会科学、人文科学の広範囲な領域の研究者や学

協会の協力のもとにオリジナルな学術データベースを形成するとともに、既成のデータベースのうち学術研究にとって有用なものを導入し、広く検索サービスを提供すること、を掲げています。この様な使命を具体的に達成するために NACSIS-

表1 NACSIS-IR システム・データベース収納状況

(昭和62年9月21日現在)

No.	データベース名	収納件数	更新頻度	収録期間	データベースの内容及び作成機関
1	Life Sciences Collection	244,026件	月次	1985.1～1987.6	生命科学分野の二次情報DB(抄録付き)。** 米国Cambridge Scientific Abstracts社作成。
2	MathSci	111,324件	月次	1985.1～1987.8	Mathematical Reviews 誌に対応する数学分野の二次情報DB(抄録付き)。米国数学会作成。
3	COMPENDEX	742,580件	月次	1981.1～1987.8	Engineering Index 誌に対応する工学分野の二次情報DB(抄録付き)。米国 Engineering Information 社作成。
4	Ei ENGINEERING Meetings	327,361件	月次	1984.1～1987.7	The Engineering Conference Index 誌に対応する工学分野の会議録論文の二次情報DB(抄録付き)。米国 Engineering Information 社作成。
5	Harvard Business Review	562件	2ヶ月	1985.1～1987.4	Harvard Business Review 誌の全文DB。 米国John Wiley & Sons 社作成。
6	ISTP & B	856,200件	月次	1982.1～1987.8	Index to Scientific & Technical Proceedings 誌に対応する科学技術分野の会議録等論文の二次情報DB。米国 Institute for Scientific Information 社作成。
7	JPMARC	671,501件	月次	1969.1～1987.9/10	日本国内で発行された図書の書誌情報DB。 国立国会図書館作成。
8	LCMARC(Books)	419,947件	月次	1986.7～1987.2	主として米国で発行された図書の書誌情報DB。 米国議会図書館作成。
9	LCMARC(Serials)	266,558件	3ヶ月	1973.1～1985.11	欧文雑誌の書誌情報DB。 米国議会図書館作成。
10	目録所在情報(和雑誌)	40,001件	—	学総目日文編 1985年版	我が国の大学図書館等に所蔵される和文の学術雑誌総合目録DB。学術情報センター作成。
11	目録所在情報(洋雑誌)	91,560件	—	学総目欧文編 1979, 1980, 1982年版	我が国の大学図書館等に所蔵される欧文の学術雑誌総合目録DB。学術情報センター作成。
12	科学研究費補助金研究成果概要DB	2,781件	年次	昭和60年度	文部省の科学研究費補助金により行われた研究成果報告概要のDB(抄録付き)。学術情報センター作成。
13	学位論文DB	5,743件	年次	昭和59, 60年度	我が国の大学で授与される博士学位論文の索引DB。学術情報センター作成。

**対応する抄録誌: Animal Behavior Abstracts, Biochemistry Abstracts, Biotechnology Research Abstracts, Calcified Tissue Abstracts, Chemoreception Abstracts, Ecology Abstracts, Endocrinology Abstracts, Entomology Abstracts, Genetic Abstracts, Immunology Abstracts, Microbiology Abstracts, CSA Neurosciences Abstracts, Toxicology Abstracts, Virology Abstracts

IR が発足したことは「静脩」前号でお知らせしました。本号では NACSIS-IR のデータベースの内容、検索例等、その概要を紹介します。

NACSIS-IR は学術情報センターの内外で作成される様々な学術情報データベース（表1）を導入し、大学等の研究者が調査研究過程で自ら情報検索を行うためのサービスを基本とし、又図書館における代行検索サービスをも対象としています。表1に見られる様に現状では抄録等の文献情報データベースのオンライン検索サービスが主体になっていますが、将来的には数値情報、画像情報等を含む多様なデータベースが導入される予定です。

検索の結果、入手を希望する原文献がある場合には ILL（図書館間相互貸借）システムを通じて図書館に複写を申し込むことができる総合的なサービスも計画されています。

NACSIS-IR の検索方法は文献の標題、著者名、各種の見出し語句等をキーワードとして文献抄録などを検索、出力するオンライン会話型のシステムです。以下に表1のNo.1, Life Sciences Collection データベースを“AIDS”と“JAPAN”のキーワードで検索し簡単な内容の表示と詳しい表示をした例を掲載します。

検索例

>>LIFE ← Life Sciences Collection の検索を開始。

Welcome to NACSIS-IR LIFE database (Rel. 871012)

Copyright Cambridge Scientific Abstracts

This database contains 322032 records.

For further information,

enter ?INFO1/?INFO2/?INFO3 subcommand.

TYPE IN COMMAND

1/S AIDS ← SEARCH コマンドにより“AIDS”を含む文献を検索する。

S AIDS

* 556 1/K.AID ← 該当文献が556件あり、文献集合1となる。

TYPE IN COMMAND

7/S JAPAN ← SEARCH コマンドにより“JAPAN”を含む文献を検索する。

S JAPAN

* 2363 7/K.JAPAN ← 該当文献が2363件あり文献集合7となる。

TYPE IN COMMAND

8/AND 1,7 ← AND コマンドにより文献集合1と7の積集合を作成する。

AND1,7

* 8 8/1 AND 7 ← 該当文献が8件あり文献集合8となる。

TYPE IN COMMAND

9/D M.X ←最も省略したモードで出力指定。以下が出力例
(アクセション番号とタイトルのみ)

DM.X

(1)

ACCN : 000051421

TITL : Antibodies to HTLV I and III in sera from two Japanese patients, one with possible pre-AIDS.

(2)

ACCN : 000131379

TITL : Occurrence of AIDS in hemophiliacs in Japan.

(3)

ACCN : 000203597

TITL : The global epidemic of AIDS.

TYPE IN COMMAND

9/D M.D ←すべての情報を表示する出力指定。以下が出力例
D M.D

(1)
ACCN : 000051421 CTLN : 0960395
ABSJ : V (Virology Abstracts)
DTYP : J (Journal article)
AUTH : Aoki, T.; Miyakoshi, H.; Usuda, Y.; Chermann, J.C.; Bare-Sinoussi, F.; Ting, R.C.; Gallo, R.C.
AFFN : Res. Div., Shinrakuen Hosp., Niigata, Japan
TITL : Antibodies to HTLV I and III in sera from two Japanese patients, one with possible pre-AIDS.
LANG : En.
TEXT : The presence in Japan of acquired immunodeficiency syndrome (AIDS) or pre-AIDS is controversial, even though two Japanese cases of suspected AIDS have been reported. Although adult T-cell leukaemia and the causative agent, human T-lymphotropic retrovirus type I (HTLV-I), are well recognised in Japan, HTLV-III and the probably identical lymphadenopathy virus (LAV) have not hitherto been reported in Japan. The authors report here two Japanese patients with lymphopenia, reduced helper T-lymphocytes, and serological evidence of exposure to HTLV-I in one and HTLV I and III in the other. A biological response modifier ("Lentinan") seemed to affect their immunosuppression. The existence of AIDS or pre-AIDS in Japan has not been officially recognised by Japanese clinicians. Patient 1 had antibodies to HTLV I and III. Patient 2 had antibody to HTLV-I and HTLV-I p24 antigen (but not antibody to HTLV-III). This is the first time that HTLV-III has been reported in Japan. Japanese cases with AIDS or pre-AIDS may have been missed because of lack of objective criteria: a conclusive diagnosis can now be reached testing for HTLV-III antibody or antigens or the retrovirus itself.
HTIL : LANCET.
HYER : 1984.
HCOL : vol. 2, no. 8408, pp.936-937
CLAS : 22099 (IMMUNOLOGY; Immune response & immune mechanisms)
MSBJ : man; Japan; acquired immune deficiency syndrome; T cell leukemia virus I; T cell leukemia virus III; antibodies
FIDX : serum levels

〈資料紹介〉

アムステルダム の 社会史 国際研究所蔵書目録

藤 本 哲 生

1. はじめに

附属図書館では、新館開館の頃から計画的に高額な参考図書類が備えつけられるようになりました。今後、この資料紹介欄で資料内容を含めて逐次紹介していきます。

図書館の蔵書目録は、その館が特色ある収書方針のもとに立派なコレクションを築き上げている場合には、貴重な書誌として役立ちます。ここに

紹介しようとするアムステルダム の 社会史 国際研究所 (以下 IISG という) の蔵書目録は、広義での労働運動の歴史に関心のある人にとっては見逃せない、興味深いものです。

2. IISG とその蔵書

この IISG は、1935年にアムステルダム 大学と密接な関係をもちながらも、独立の組織として設立されました。この設立の経緯及び収集について

は註1の論文が詳述しています²¹。ここの図書館には労働運動と労働者思想が、国際的な広がりにおいて反映されています。主に19・20世紀に重点が置かれていますが、それ以前の時期もカバーされています。この蔵書目録には図書及びパンフレットだけが収録されていますが、その他に当研究所にはいわゆる逐次刊行物も豊富に収集されています。図書館とは別に、手稿／文書部があり、これが世界唯一の手稿／文書であり、そのマイクロフィルムは極く僅か他の研究機関にもあつたり、活字となっている場合もありますが、やはりオリジナルを自分の眼で確かめるため、世界中の研究者がアムステルダムを目指すのです。

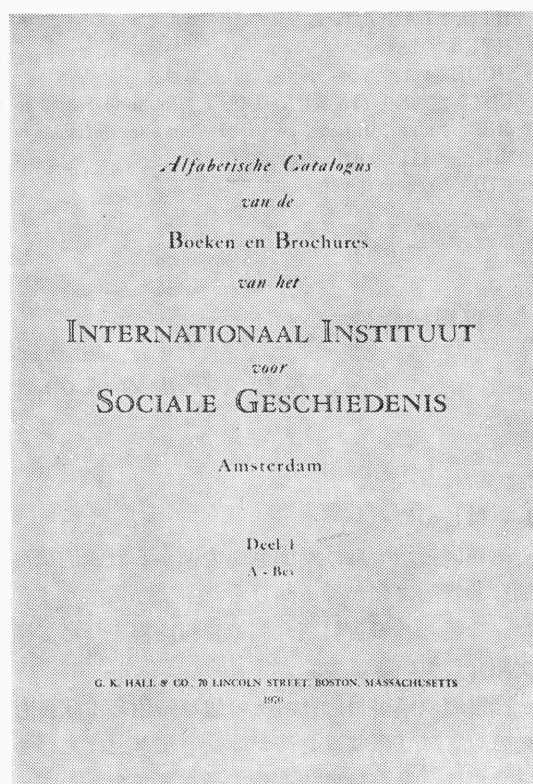
ここの蔵書は、この目録の正篇の作成時点で既に35万冊を数えていましたから、今は40万冊をはるかに越えているでしょう。ここの蔵書のもとになったのは、有名な研究者の蔵書／文庫です。例えば、マックス・ネットラウ (Max Nettlau) のコレクション、彼はアナーキストとしても有名ですが、それ以上にその歴史及びバクーニン伝の執筆に献身した人です。彼の心血をそそいだバクーニン伝は活字としては遂に出版されず、死後数十年した1971年に、手書き原稿のままのファクシミリ版として刊行されました²² (法学部所蔵)。独文で、かなり読み難いが標準的な筆記体ですので、少し努力して慣ると (もちろん活字で読むよりはるかに時間がかかりますが) 読めます。このネットラウ文庫には約4万件のアナーキズム関係の文献が収集されています。リュシアン・デスカヴ (Lucien Descaves) のパリ・コンミュン関係コレクション、1600年から1860年代の、イングランド、スコットランド、アイルランドの民主主義的、急進主義的、社会的運動及び思想に関する、いわゆるカシュノール (Kashnor) コレクション (約1万件)、グスタフ・マイヤー (Gustav Mayer) の19世紀のドイツ社会民主主義運動及び初期ドイツ社会主義の歴史に関するコレクション等があります。G・マイヤーは、フリードリッヒ・エンゲルスの伝記者として有名です。彼の伝記は御世辞にも面白いものとは言えませんが、文献に基づいた着実な伝記とは言えます。その他に北米

大陸関係、スラヴ関係 (約4万冊)、第1・第2・第3 インターナショナルと国際労働組合連盟 (Trade Union International) の傘下組織の出版物のコレクションがあります。

3. 蔵書目録について

この蔵書目録は、よくあるように目録カードのオフセットによる縮小印刷です。前書きによると、その記入はまず伝記的な記入が主記入に優先します。団体著者は採用されていません。個人名の書誌のコントロールはなく、その出版時の綴りのままで排列されていますので、注意を要します。匿名著者のものは、著者の本名が判明していても、匿名の最初の主格の名詞からとられています。ロシア語などのいわゆるキリル文字の翻字には、少し変更を加えた上で、ISO方式を採用しています。よくあるLC方式と多少異っているのも、これにも注意を要します。

ざっとページをめくってみると大体の排列の基準がのみこめてきますが、一例としてバクーニン



関係のところを挙げて説明しましょう。バクーニンの綴りは、英・独・仏・蘭語で **Bakoenin, Bakoenine, Bakounine, Bakunin** と 4 通りあります。バクーニンの場合には、ISO 方式と LC 方式とではキリル文字の翻字法が異なりません。個人名の典拠コントロールがなされてないと前書きにあります。参照カードにより、結果的には集中してきます。この目録は図書及びパンフレットだけを収録しているのですが、雑誌論文の抜刷り等が製本されたものもあります。(例えば、『出版と革命』というソ連の雑誌の1921年から1924年の各号に載ったバクーニン関係論説が集められています。) 収集者の個人的努力によるようで、その死後にはそういうものは見当りません。バクーニン関係の箇所は第1巻448頁～457頁で、収集者の当時としてはほぼ完璧な収集だったろうと思われます。バクーニン伝にかけたネットラウの情熱、執念がうかがわれます。排列はバクーニン自身の著作が先に来るのではなく、バクーニン関係の著作が主題的に集中されていて、各著者へ参照するように指示されています。このグループ内では著者のアルファベット順のようです。収集者ネットラウ自身の著作は451頁中段から出てきます。16点あることが分ります。詳しい書誌の事項も知るためには、Nのネットラウのところを見る必要があります。バクーニン自身の著作は252頁～457頁に載っており、各国語の全集、選集、単行書、パンフレットの集成で、よくもこれだけのパンフレットを集めたものだと驚嘆します。

4. 余 話

IISG には、マルクス・エンゲルスの遺稿があり、これをめぐる興味深い裏話がありますので紹介します。マルクス・エンゲルスの遺稿は彼等の死後ドイツ社会民主党が保管していました。しかしヒトラーの台頭により、同党も非合法化され、これらの文書も危険に瀕し、コペンハーゲン及びパリに疎開させました。一方、ロシア革命以後ソ連邦にマルクス・エンゲルス研究所が創立されて、所長リャザノフ以下の努力により活潑に資料収集が行われていましたので、ドイツ社民党もこれらの文書の売却の交渉をソ連邦ともつことになりま

した。結局は交渉は不調に終り、アムステルダム の当研究所に納ったのですが、この交渉のための代表団がソ連邦から派遣され、その一員にあのブハーリンが加わっていたのです。ブハーリンは当時失脚していて、政治生命はほぼ絶たれ、2年後には粛清裁判で死刑を宣告されるという、運命の別れ途にいたという現代史の最もドラマチックな事件が起ころうとしていた頃です。ブハーリンに対して亡命の誘いかけがされたのですが、「わたしはロシアなしでは生きていけそうにない。」とこの誘いを断ったそうです。マルクス・エンゲルス文書の売却に関してのドイツ社民党側に元メンシェヴィキのボリス・ニコラエフスキーがいて、仲介しました。彼とブハーリンは以前から多少の面識があったので、公式の話し以外に、個人的な話もでき、そのなかでソ連邦の政治の内幕について一部もらしたのです。そこでニコラエフスキーは、この談話と他の人から得た情報を総合して、メンシェヴィキの機関誌『社会主義通報』1936年12月22日号に「一古参ボルシェヴィキの手紙」と題して発表して、センセーションを惹き起こしました。この手紙が当時のロシア共産党内闘争を伝える貴重な証言として史料視されてきました。1965年になってニコラエフスキーはこれを自分の著書に収録するに当り、はじめてこの手紙が彼の手になるという事実を明らかにしました。またブハーリンが『資本論第三部』の草稿を繰返し読んで、階級に関する箇所が明確でないままで中断していることに大いに失望して「ああ、カリューシャ、カリューシャよ、なぜおまえは最後まで書けなかったのかい。それはおまえにはむづかしいことだった。しかし、書いていてくれたらわれわれにとってどんなに役立ったかしれないのに。」と嘆息をあげたと述べています³⁾。

『資本論』の文献学的研究が、刊行されたものに頼るだけでなく、草稿にまで遡及して研究されるようになって、IISG は我国でも有名になりました。

この蔵書目録はA 4判の大冊で正篇全12冊、第1、第2補遺全5冊です。1975～1979年に出版されました。補遺版は1975～1978年に処理されたも

のと、ラテン・アメリカ、チェコ・スロヴァキア、ブルガリア、ルーマニアやアジアに関するパンフレットを収録したものです。

請求記号は YP21 I1 で、B2 階中間ブロック東側、新分類洋書が排架されている場所にあります。

Alfabetische catalogus van de boeken en brochures van het Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis. Amsterdam.

Boston [Mass], G. K. Hall & Co. 1975-1979.

- 1) Mayer, Paul: Die Geschichte des sozialdemokratischen Parteiarchivs und das Schicksal des Marx-Engels-Nachlasses, *Archiv für Sozialgeschichte*.

(Hannover), Bd, VI/VII 1966/67 SS.5-198

佐藤金三郎「アムステルダムだより— IISG とマルクス・エンゲルス遺稿をめぐる—」思想556(1970. 10)pp.125-141

- 2) Nettlau, Max: Michael Bakunin: eine Biographie 3Bde in 2. [1896-1898.] (Only 50 copies of this edition have been produced, all of which are numbered and signed.) Feltrinelli Fac-simile reprint 1971. この Reprint の元になった版は限定22部目の Jacque Meseil(?) に贈られのものである。(市販用限定20部中№10のものが法学部図書室の所蔵である。)
- 3) Nicolaevsky, Boris I.: Power and Soviet elite; "the letter of an Old Bolshevik" and other essays. ed. by Janet D. Zagoria pp.3-25. 25p.

『権力とソヴィエト・エリート』中村平八・南塚信吾訳 みすず書房 1970. pp.19-41. p.36

「京都大学同和問題文献・資料コーナー —図書目録—1986」を刊行

本学では、教職員・学生が同和問題に必要な調査研究や学習等を積極的に行っていくため、昭和48年に同和問題委員会が発足、51年度からは同委員会に選書小委員会が設置され、関係図書・雑誌の選定、収集が行われてきました。

選定された資料は学内4キャンパス、すなわち附属図書館、農学部図書室、教養部図書館、医学図書館の資料コーナーに配架しています。

今回発行した目録には、昭和49年度～61年度までの13年間に受入れた図書：約800点、雑誌・新聞：20種を収録しています。

この目録は2年に1回累積版として発行し、全学の図書館(室)に配布してあります。この小冊子が少しでも利用者のお役に立ち、同和問題に対する自発的な調査研究や学習に資することが出来れば幸いです。

中国から学術図書の寄贈を受ける

このたび、附属図書館は中華人民共和国国家教育委員会(日本の文部省にあたる。)のご好意により、1000余冊の図書と逐次刊行物10種の寄贈を受けました。

〈内訳〉

図書(中国書)：経済学，文学，歴史，自然科学関係等： 883冊

(洋書)： 2冊

(参考図書)： 129冊

逐次刊行物： 10種

寄贈受入手続後、直ちに目録・分類等作業を行い、それぞれ二階開架閲覧室又は一階参考図書室に配架しておりますので、せいぜいご利用下さい。

第1回国立大学図書館協議会シンポジウム(西会場)開催される

国立大学図書館協議会は、昭和60、61年度に設置された調査研究班及び学術情報システム特別委員会での検討内容を現場の第一線で活躍している実務者(掛・係長)に周知、理解を深め、実現方策について方向性をみだすため、東西二会場でシンポジウムを持つこととし、西地区については本学図書館を会場として、32大学から34名の出席をえて、昨年10月22日(木)～23日(金)に開催した。

第1部：図書館業務のシステム化と目録システム

課題報告では学術情報システム特別委員会の設置、学術情報センターへの要望書提出までの経過の報告、図書館ネットワークの立場からのシステム化及び目録システム(OPAC)がハウスキューピングに優先すべきことが強調された。

この後、二大学から各館の電算化の現状と問題点について意見発表を行い、熱心な討議が行われた。

第2部：相互協力活動の推進

(1) 現物貸借・文献複写料金

「相互貸借の推進方策調査研究班」第一次報告作成までの経過とその概要について課題報告された後、二大学から当該大学での相互協力活動の取り組みと問題点について意見発表がなされ、引き続き「報告書」の指摘している問題点について活発な討議がなされた。

(2) 大学図書館の公開

課題報告は「大学図書館の公開に関する調査研究班」設置に至る経緯及び報告書の概要、さらに62年8月、全国立大学図書館を対象に実施されたアンケート調査の結果について行われた。

討議のなかで、四大学の実情報告を受け、実施にあたっては、人員、施設面等の問題点の指摘があった。しかし、公開は社会の要請として行わねばならない課題であり、可能な限り学外者へのサービスをすることが必要であることを再確認した。

大学図書館研究集会（第8回）開催

今回で8回目を迎えた大学図書館研究集会（日本図書館協会大学図書館部会及び国公立大学図書館協力委員会の共催）は、11月25（水）～26日（木）の2日間、大阪市立大学で開催された。「大学図書館のサービス改善の方向を探る－イノベーションへの対応－」をメインテーマとした今回の研究集会には、北は北海道から、南は沖縄まで、全国の大学図書館から約270名（204大学）が参加した。

第1日目の午前中は、開会式の後、安達淳助教授（学術情報センター）から「学術情報システムの最近の動向と近未来の展望」と題する基調講演があった。午後から第2日目の午前中までは、三つの分科会にわかれて、コーディネータを中心に活発な討議が行われた。午後の全体会議では、2日間にわたって討議された分科会の報告と質疑応答が行われ、2日間の日程を終えた。

各分科会のテーマ及び主な討議内容は、次のと

おりである。

第1分科会 「大学図書館へのニューメディアの応用」

ファクシミリ、CD-ROM、ビデオテックス、電子出版等のニューメディアの出現に伴う、これらニューメディアの大学図書館への応用の可能性及び大学図書館の機能・役割等への影響について討議。

第2分科会 「学術情報センター接続と図書整理の課題」

学術情報センター（NACSIS）との接続によるオンライン共同目録作業について、既接続館における現況報告にもとづき、問題点等を討議。

第3分科会 「小規模図書館（室）の電算化」

小規模図書館（室）における電算化事例を中心に、電算化における諸問題について討議。

分科会でのテーマに見られるように、ファクシミリ、CD-ROM等のニューメディアの出現及び学術情報センターとの接続によるオンライン共同目録作業の進展等の新しい技術革新の動きに対応して、大学図書館はいかにあるべきか、サービスのあり方等を討論の主眼とした今回の研究集会は、ほぼ期待どおりの成果をおさめ得たように思われる。

揺籃期の京都大学

－創立90周年記念展－を開催

明治30（1897）年6月18日、勅令第209号により設立された京都大学は昨年創立90周年を迎えました。

附属図書館では、毎年、テーマを選び本館所蔵資料を主とした展示会を開催しております。学外者にも一般公開するこのイベントは、大学図書館公開の一つとして好評を得ております。

今回は創立90周年にちなみ、京都帝国大学の創立前後から総合大学として四分科大学（理工科大学、法科大学、医科大学、文科大学）の設立までを取りあげ、明治期一草創期の本学の姿を示す展



示会を11月16日（月）から28日（土）まで附属図書館展示ホールで行いました。

全体を二部に分ち、第一部を「京都帝国大学の創設まで」とし、京都帝国大学の創設計画、創設に至る勅令等公文書（国立公文書館所蔵の勅令をカラー写真に撮影し、原寸大に複製、パネル展示を行った。）及び創設当時の姿を、第二部は「創設後の姿」とし、四分科大学、図書館、エネルギー施設等の様子を現わす資料を展示しました。

4日目の19日（木）には本学名誉教授、元教育学部長、現甲南女子大学長・鯨坂二夫先生による記念講演会を「日本の教育と京都大学」という演題で開催しました。